

四日市市立水沢小学校

学校だより

令和8年2月13日 第47号



差別の現実から学ぶ～2日(月)6年生人権学習～



6年生が、小山田小学校の6年生と人権について一緒に学びました。社会科の歴史で学んできた水平社宣言について、前任の北住校長先生を講師にお招きし、資料やビデオを基にしながら、水平社宣言にかけると関わった人々の差別を許さないという強い思いや願いについて、自分でじっくりと考えたり、小山田小の子と話し合ったりしながら、考えを深めていきました。はじめは緊張もあったようで、話し始めるのに時間がかかったペアもありましたが、学習が進むにつれて、お互いの考えを交流し合う姿が見られるようになりました。4月からは、西陵中学校でともに学ぶなかまです。この取り組みを通して、身近にあるいじめや差別を許さない、なかまの思いをしっかりと聴き合うことを大切に、自分自身に向き合ってほしいと願っています。

<子どもたちの振り返り>

- 水平社宣言の動画を見て、いじめられた人がどういう気持ちでいじめや差別を受けてきたのかがよく分かった。疑問に思ったことがあって、何でいじめや差別が起きてしまうのか、その原因は何なのかが疑問に思いました。いじめや差別をする側にもされる側にもなりたくない。
- 改めて差別はだめなんだと思った。差別をされた人たちが集まって、「差別はだめ」とか言って、少しずつ差別やいじめが無くなったのがすごいと思った。若い人が本気で呼びかけたら、ここまで世の中がかわるのがすごいと思った。
- ひどいいじめにあった人たちは、本当にいやな気持ちがあると思う。いじめをした人は、その時はわからないけど、あとあと後悔すると思う。
- 小山田小学校の6年生と水平社宣言について、考えてみて、はじめはちょっと気まずくて恥ずかしかったけど、最後ぐらいに話し合いの時に話げできたのでうれしい。

発見！水沢っ子の素敵な姿！！



先日、4年生が地域の方から福祉について学んだ時の出来事です。SSピンポン体験をするために、2チームに分かれました。はじめは1対1の対戦でしたので、順番に対戦していたのですが、途中から、ダブルス(2対2)の対戦となり、7人と奇数のコートの方は、ペアができずに1人になってしまう場面がありました。「だれか一緒にやってくれませんか？」と一人の子が声をかけると間髪入れずに「いいよ。私が一緒にやるよ。」と、すぐにコートに入りました。困ったときはお互いさま。なかなか困った

ことが言えずに前に進むことができない子どもたちも多い中、まずは、「誰か一緒にしてほしい」と声をかけることができたこと、また、その困り感に対して、自然と助けようとできた姿は、見ていてとても気持ち良かったです。そのようななかまだったら、安心して困ったことが話せるなあと感じました。相手を思いやる気持ちが、子どもたちの心の中に育ってきていることを実感しました。

(文責 岡本浩樹)